

平成24年度公立大学協会
図書館協議会研修会
(2012年9月7日 京都平安ホテル)

大学図書館のミッション・業務の再点検：
教育支援・学習支援の観点から

天理大学人間学部
総合教育研究センター 准教授
古賀 崇

Email: tkoga@tenri-u.ac.jp

Web: http://researchmap.jp/T_Koga_Govinfo/

本日の内容

- 「図書館のミッション」という観点から
- 筆者自身の経験
 - 授業の展開
 - 図書館から学内への働きかけ
 - 学生のつまづき・戸惑い
- 教育支援・学習支援の枠組み

自己紹介：経歴

- 福岡県大和町(現・柳川市)出身
- 東京大学法学部卒業後、東京大学大学院教育学研究科、米国シラキュース大学(ニューヨーク州)情報学大学院にて図書館情報学を学ぶ
- 国立情報学研究所(NII)助手・助教(2004～2008)
 - 同 客員准教授(2009～)
- 京都大学附属図書館研究開発室准教授(2009～2012)
- 天理大学准教授(2012～)
 - 図書館司書課程担当
- 学習院大学大学院アーカイブズ学専攻非常勤講師(2008<専攻発足時>～)

自己紹介：研究テーマ等

- 「政府情報へのアクセス」がもともとのテーマ
 - 「情報公開」を手続き面だけではなく、実体面（情報の取り扱い）で考える
- 「学習支援・教育支援」への接近
 - NII在籍時の、各種サービスとのかかわり（WebcatPlus、CiNiiなど）
 - 京大在籍時の「学術情報リテラシー」関連の諸業務
- 博物館・図書館・文書館連携（MLA連携）にも関心をもつ

本日の前提となる話(1)

(以下いずれも古賀のサイトからリンク)

- 「大学図書館と学習支援・教育支援：京都大学での実践を通じての考察」
 - 私立大学図書館協会阪神地区協議会2011年度第2回定期総会・講演会(2012年2月20日, 桃山学院大学)
 - <http://hdl.handle.net/2433/153405>
- 「「利用教育」の射程を考える：京都大学での実践をもとに」
 - 第17回図書館利用教育実践セミナーin 京都(主催：日本図書館協会, 2012年3月10日, キャンパスプラザ京都)
 - <http://hdl.handle.net/2433/154585>

本日の前提となる話(2)

- 「大学をとりまく課題と大学図書館の役割」
 - 平成23年度大学図書館職員短期研修(京都大学会場), 2011年10月4日
 - <http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/h23/index.html>
- 「電子辞書と電子リソース」と教育・研究とのかかわり
 - 図書館総合展フォーラム「次世代電子図書館を探る」, 2011.11.11, パシフィコ横浜.
 - <http://hdl.handle.net/2433/150937>

図書館あるいは大学図書館の 「ミッション」

「ミッション」

- 公立大学図書館として
- 公立大学／公立大学法人として
- 自治体／自治体職員として

手がかりとして

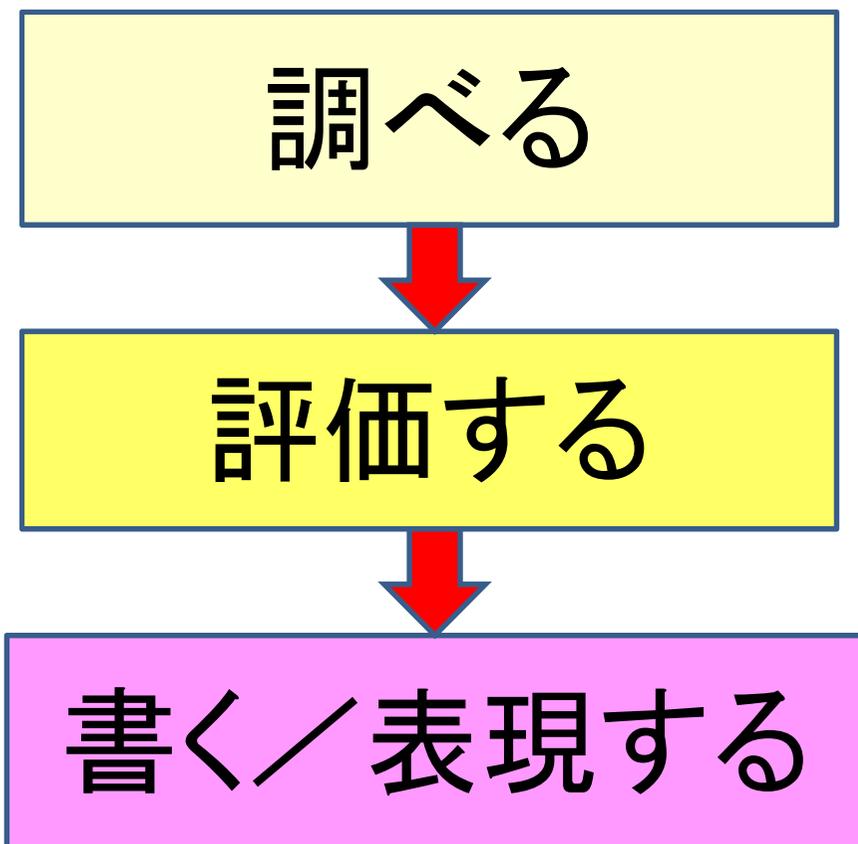
- 片山善博「図書館のミッションを考える」『情報の科学と技術』Vol. 57, No. 4, 2007, p. 168-173.
 - 片山氏：掲載当時は鳥取県知事、のち総務大臣、現・慶應義塾大学教授
 - 図書館に関する執筆・講演を継続

片山氏の論考の概要より

- 図書館本来の機能、つまりミッションは、民主主義社会の国民・住民の「**自立支援**」を「知的インフラ」という側面で支えることである。真の民主主義社会の実現には、政府と国民との間でできるだけ広範な情報共有が必要であると同時に、**政府が発信する情報だけでなく、いわば「対抗軸」ともいうべき客観的資料や政府案への問題点を論じた資料**など、バランスの取れた情報環境が必要である。また、重要な政策決定を審議する際、**失敗事例、諸外国事情**を含め、基礎となる資料や情報は不可欠である。それらの**情報環境**を担うのが図書館であり、図書館のミッションといえる。そして、それらの情報へのアクセスを的確に行うのが司書の役割である。

大学図書館に引きつけると...(1)

- 学生の「自立」に必要な3要素



大学図書館に引きつけると...(2)

- 上記3要素のための「情報環境」を整備できているか
 - 多様な資料の整備・案内
 - 「情報へのアクセス」+3要素の支援
 - 「聞かれたら応じる」だけでよいか？ より「打って出る」方策を取ることができないか？
 - 多様な情報源への目配りと評価
 - 特にネット上の情報源
- 「情報環境の整備」のためのマネジメント
 - 大学上層部などとの交渉スキルも

いくつかの大学での経験から 考えたこと

京大での取り組み(1)

- 全学教育科目「情報探索入門」
 - 長尾真教授の提案で1998年度より開始
 - 当時京大附属図書館長、のち京大総長、国立国会図書館長(2007～2012)を歴任
 - 分類、目録、参考資料の活用、論文検索、インターネット検索、などのトピックについて、リレー講義と演習を組み合わせる
 - 授業専用ページ(過去の授業資料にもリンク)
 - 京都大学図書館機構 (<http://kulib.kyoto-u.ac.jp>) →「学習サポート」→「情報探索入門」
- 古賀自身の「ポケット・ゼミ」(後述)

京大での取り組み(2)

- 「学術情報リテラシー」について、学生・教員の声を聴く
 - 学部ごとの取り組みの違いが顕著
 - 教員の要望の違い
 - どのタイミングで教えるべきか：入学後の早い時期、専門教育の開始時、大学院での教育時...
 - 「学習スキル面の初年次教育」の未確立からくるデメリット

↓

- 図書館がかかわる「学術情報リテラシー」活動の方針策定

その他の大学で...

- 「専門資料論」
 - 司書課程旧カリキュラムでの必修科目
 - 主に、大規模公共図書館や大学図書館で扱うような専門的・学術的資料について解説
 - 新カリキュラムでは消滅;「図書館情報資源特論」(選択科目)の名で同内容を実施するところも
 - 古賀は2004～2006年度に東洋大で担当
 - 「学術情報リテラシー」の側面を意識
 - 2006年度の授業内容をウェブで公開:
 - 古賀のサイト → その他の資料 → 「専門資料論」

学生をつまづき・戸惑い(1): 「図書」・「雑誌」・「論文」などの区別

- OPACで論文を探そうとする
- 「時間の経過」に伴う位置づけの違い
 - 比較的「近いこと」を扱うのはどれか？
 - 逆に、「ある出来事からある程度時間が経っての分析」が収められがちなのはどれか？
- 「引用・参考文献リスト」から、図書・論文の違いを見抜くことができるか？
- 【関連】「図書も論文も一度に探し出せるデータベース」のメリット・デメリット

「引用・参考文献リスト」の例

- 仲本和彦『研究者のためのアメリカ国立公文書館徹底ガイド』凱風社, 2008.
- 古賀崇「設立75周年の米国国立公文書館を訪れて: 展示の模様を中心に『レコード・マネジメント』 No. 58, 2010, p. 25-31.
- 古賀崇「日米のアクセスを比較して」小川・小出編『アーカイブへのアクセス: 日本の経験、アメリカの経験』日外アソシエーツ, 2008, p. 195-208.
- 河野勝「合理的選択」猪口孝ほか編『政治学事典』弘文堂, 2000, p. 333.
- Millar, Laura A. Archives: Principles and practices. Facet Publishing, 2010.

学生をつまづき・戸惑い(2): 「事典類」の存在

- 辞書は(「電子辞書」も含め)身近ではあるが...
- 百科事典・専門事典など、種類の使い分け
 - 「五十音順の列挙」よりも、「体系が明示された“読む事典”」のほうが、学生は取っつきやすい?
- 事典の項目から何を読み取るか
- Wikipediaもメリット・デメリットを認識した上で
の活用が必要
 - あくまで「信頼のおける他の情報源への手がかり」として

学生をつまづき・戸惑い(3)

- “じゃあ、すべての要求に完璧に応えてくれる情報源はあるんですか？”

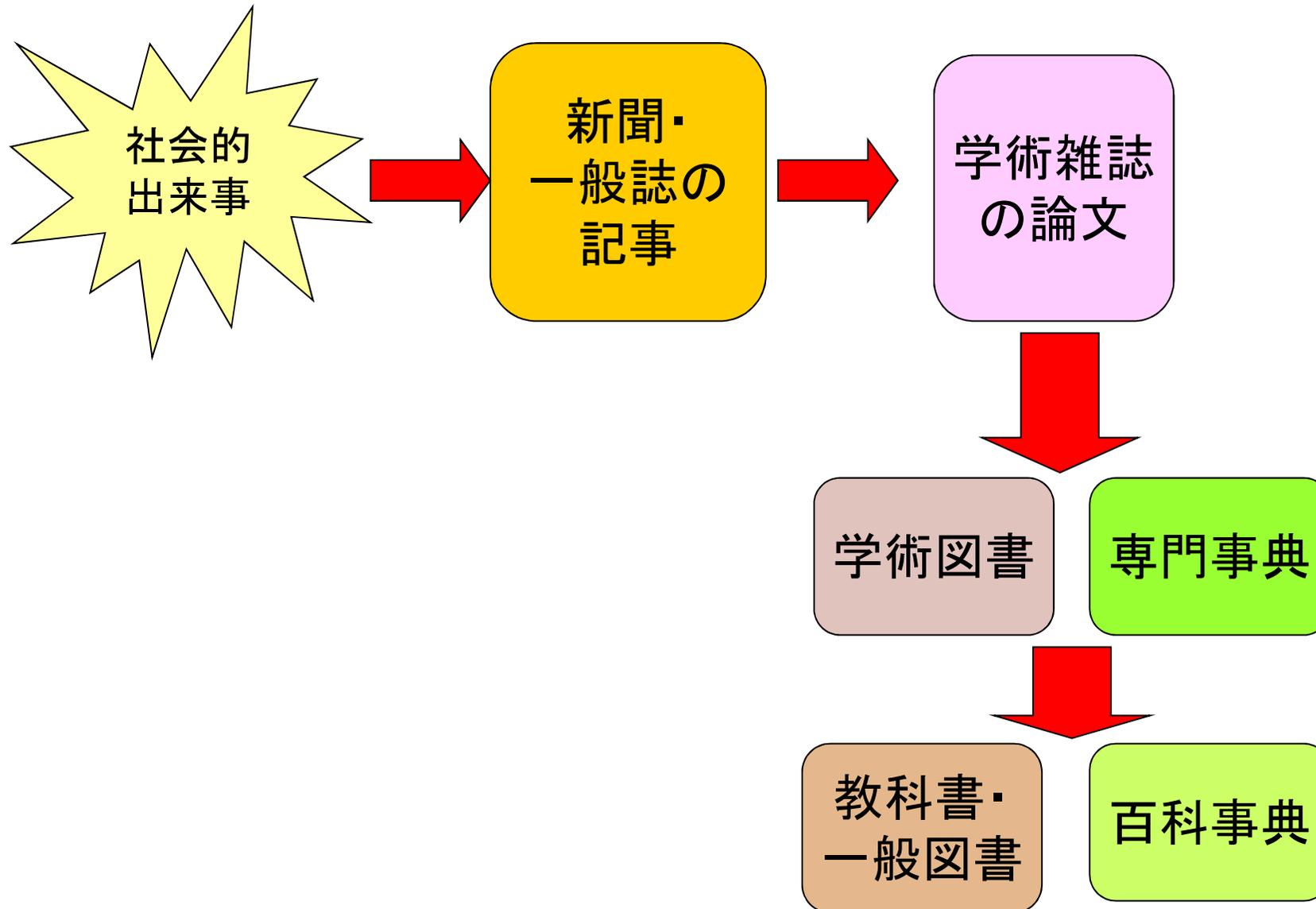


- 認識すべきなのは...
 - どの情報源も「すべての要求に完璧に応えてくれる」わけではない
 - さまざまな情報源には、それぞれの強み・弱みがある
 - 自分が調べたいことに応じて、情報源を使い分けることが重要

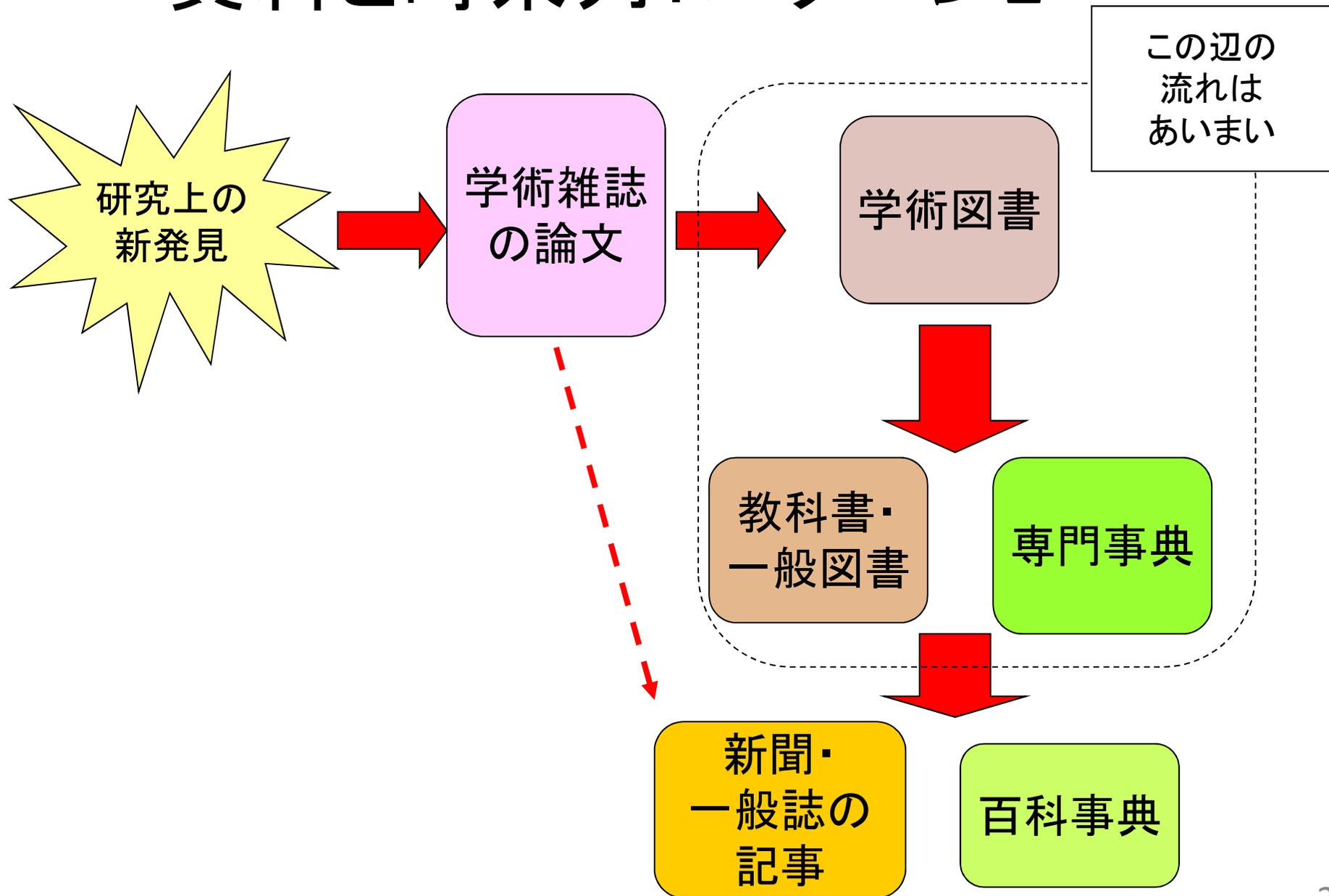
【関連】

「情報源の使い分け」について
(古賀自身の授業資料より抜粋)

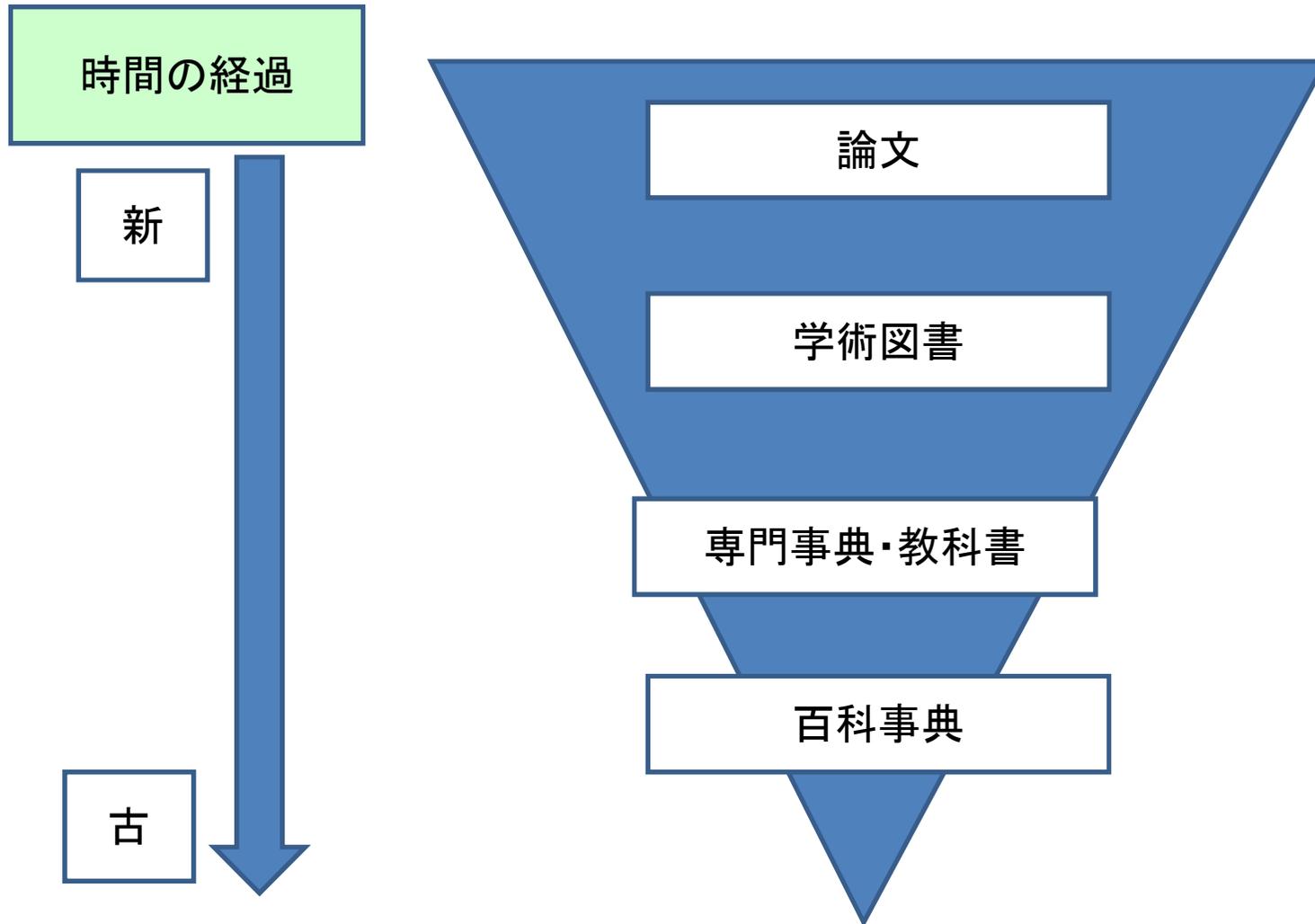
資料と時系列：パターン1



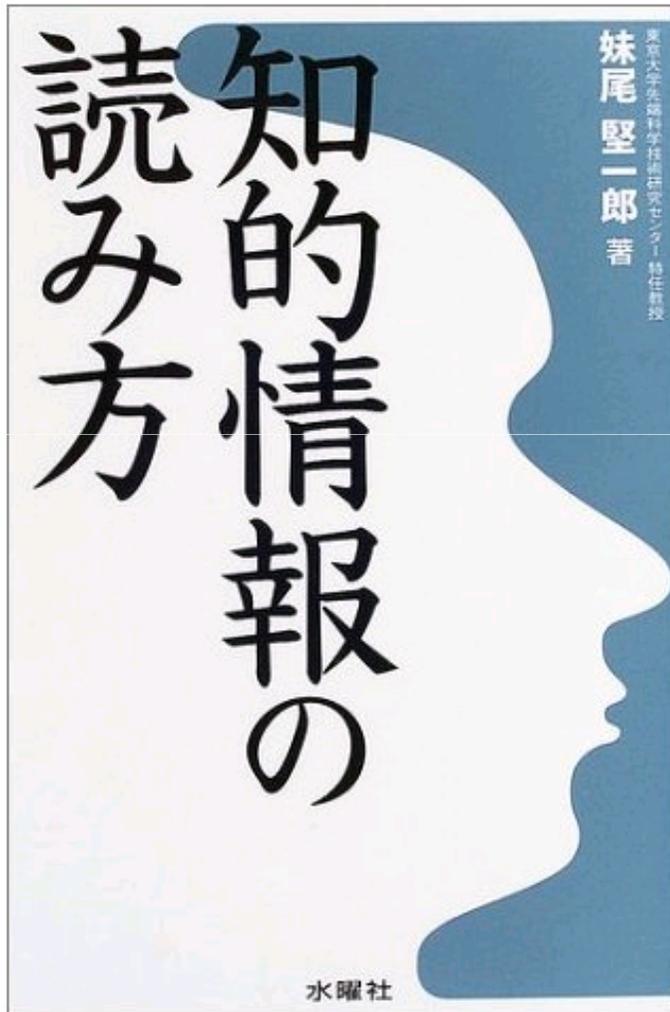
資料と時系列：パターン2



「知識」は一定の方向へ収まっていく
（「新説」による急変化もあるが）



関連書籍(1)



- 妹尾堅一郎『知的情報の読み方』水曜社，2004.
- 妹尾堅一郎『考える力をつけるための「読む」技術』ダイヤモンド社，2002.
 - いずれも、情報源の構造・位置づけ・作られ方を意識した「読み方」を示す

関連書籍(2)



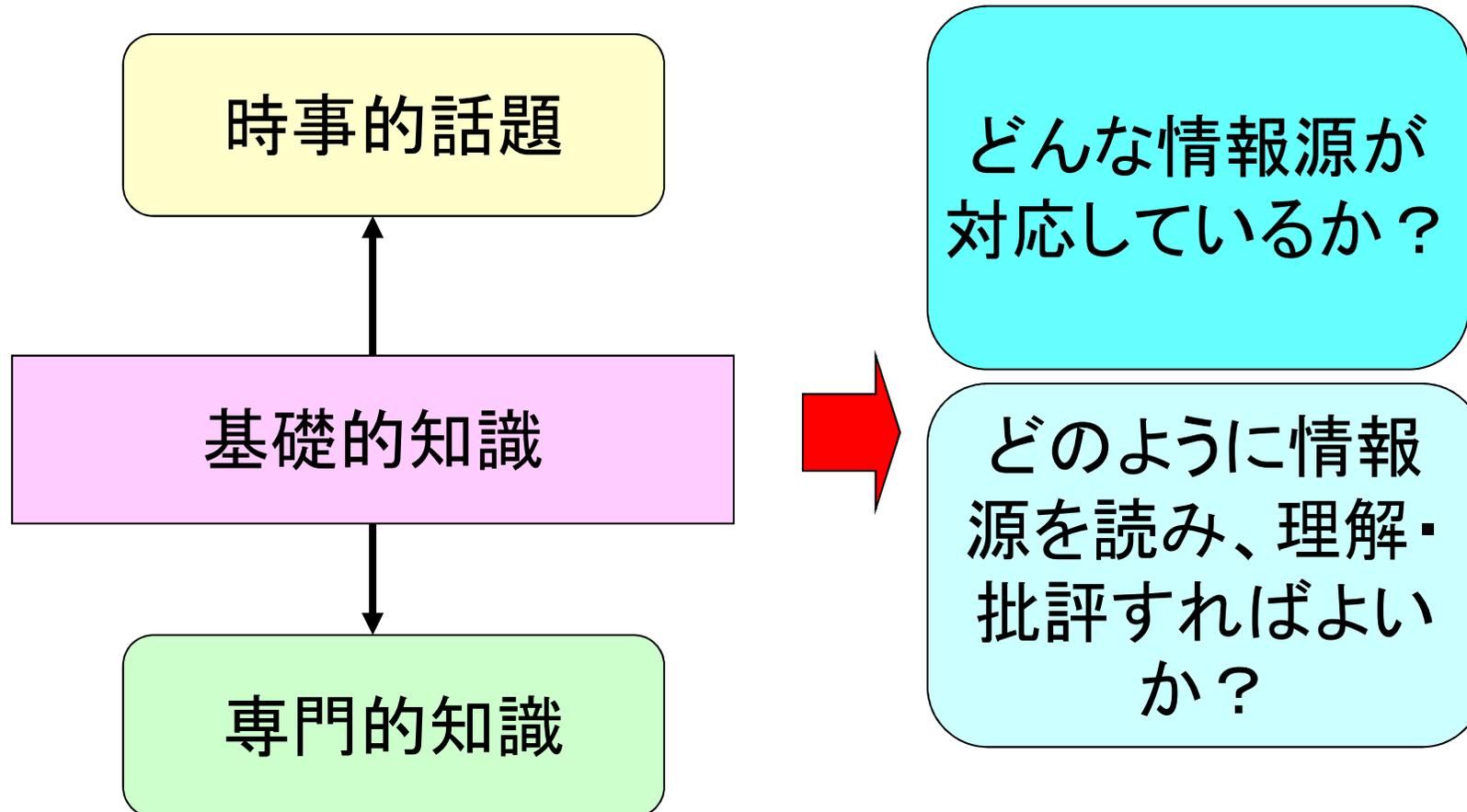
- 小山田耕二・日置尋久・古賀崇・持元江津子『研究ベース学習』(コロナ社, 2011)
- 全5章十付録(授業の実例)
 - データの収集・分析、論文化、発表など
- 古賀は4章「学術文献の探索と評価」を執筆

教育支援・学習支援の枠組み(1):
筆者自身の試み
(京大の「ポケット・ゼミ」)

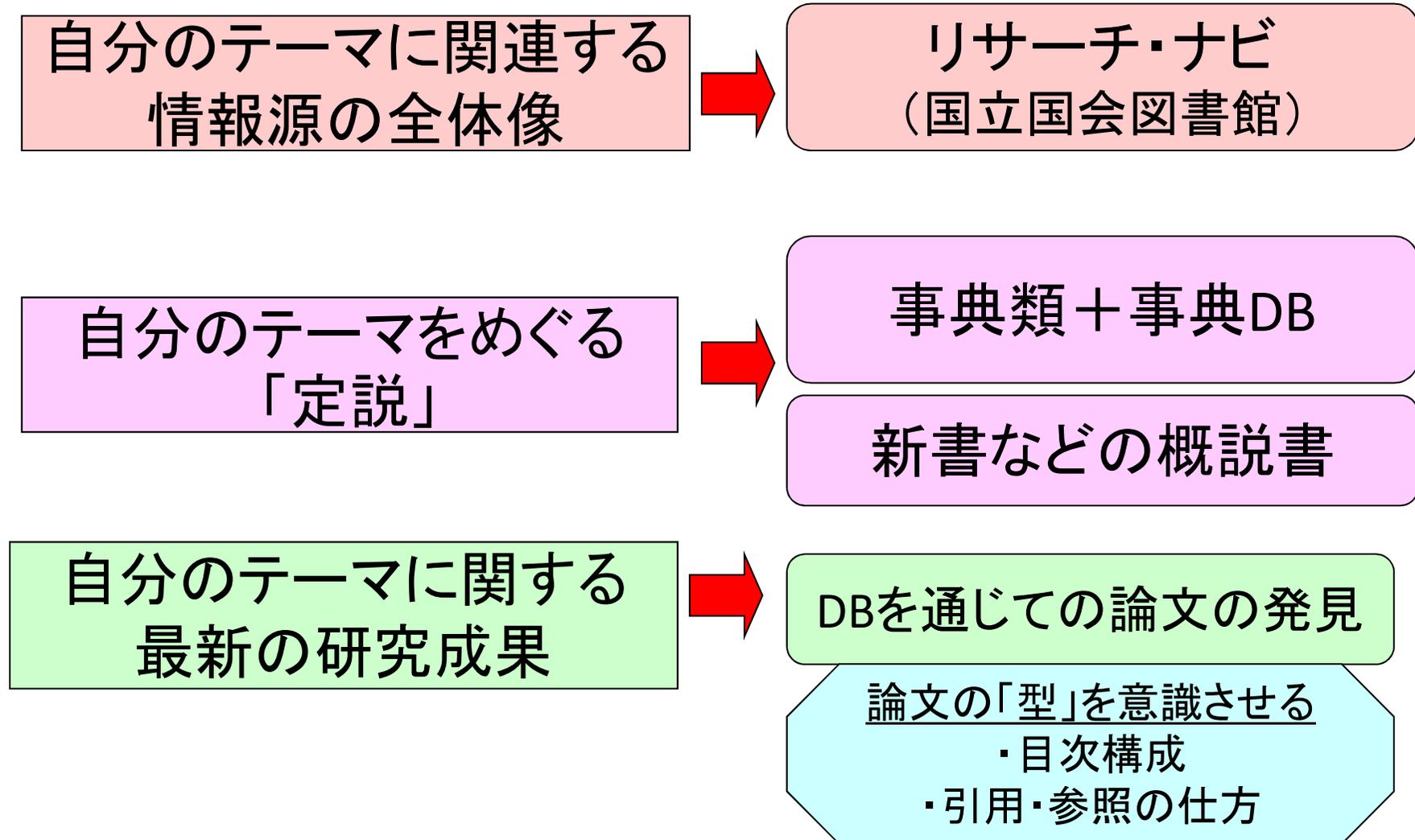
京大における「ポケット・ゼミ」 (ポケゼミ)とは

- 正式名称:「全学共通科目 新入生向け少人数セミナー」
 - ポケゼミの位置づけ・ねらい:新入生に対し、京大としての最先端の研究成果などに触れさせる
 - 各科目で原則10名程度まで。主に前期開講
 - 半数程度(約1600名)の新入生が受講
- ↓
- 平成23年度ポケゼミ「情報源を読み解く」(古賀担当)
 - ねらい:情報源の「構造」や、各種情報(源)の読み方・活用法を理解する
 - 種類ごとの特徴、「時間の流れ」、研究過程とのかかわりなど

情報源の「構造」の大枠



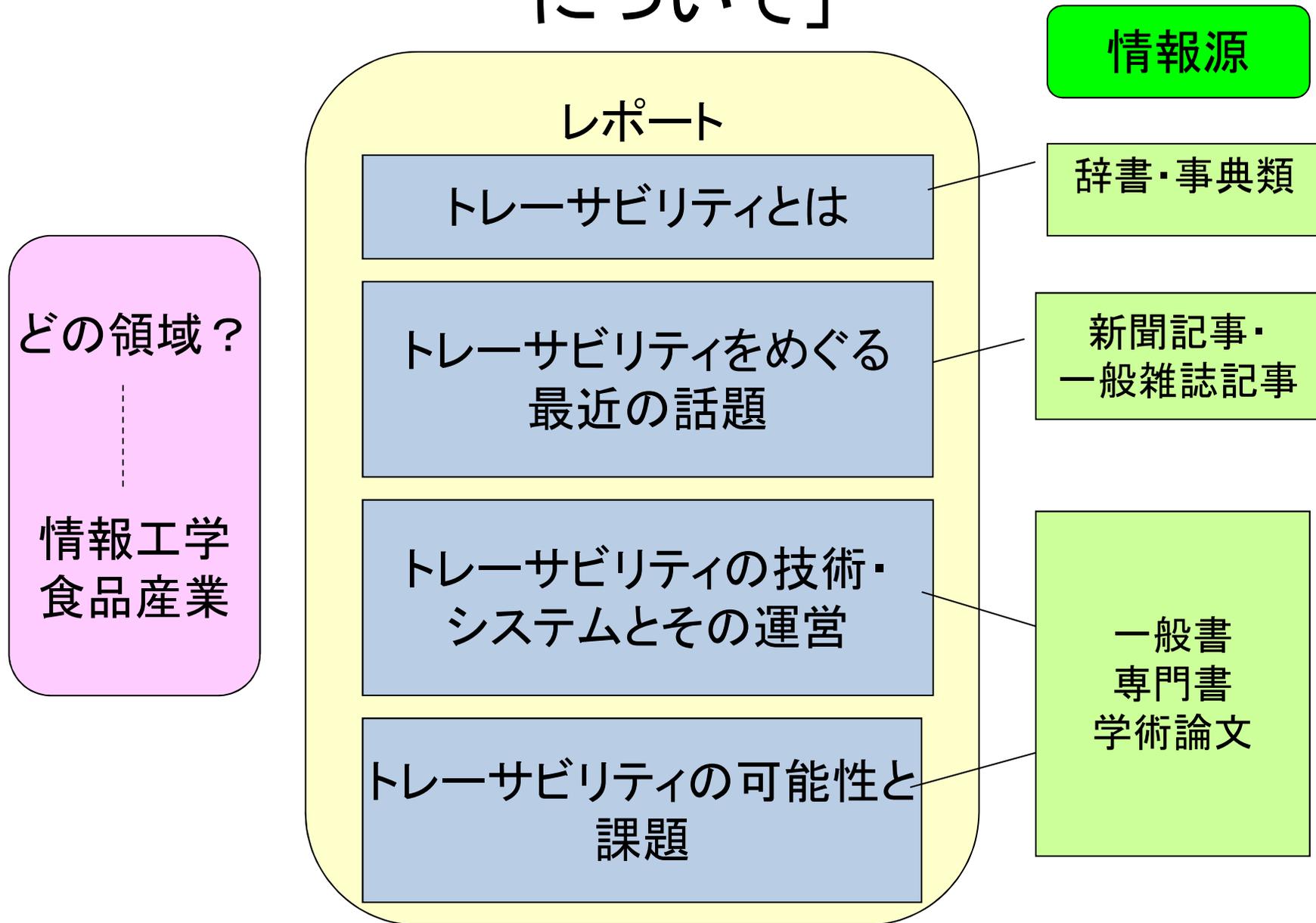
ポケゼミの大まかな流れ



効果と反省

- 情報・情報源を読むためのポイントの提示
- さまざまな情報源に触れさせる
→ 学生の発想の活性化
- 「インプット」から「アウトプット」にどう結びつけるか

例:「食材のトレーサビリティをめぐる現状について」



教育支援・学習支援の枠組み(2): 体系化に向けて

日本図書館協会・図書館利用教育ガイドライン(大学図書館版 1998)

- ・ 領域1 印象づけ
- ・ 領域2 サービス案内
- ・ 領域3 情報探索法指導
- ・ 領域4 情報整理法指導
- ・ 領域5 情報表現法指導

- ・ 領域4・5は図書館単独でどこまでやれるか？
→学内での「パートナーシップ」の重要性

【参考】日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック:大学図書館版』日本図書館協会, 2003.

図書館がかかわる「情報リテラシー教育」の体系化の試み

- 峯 澄子ほか「三重大大学の附属図書館が実施する情報リテラシー教育」大学教育改革フォーラム in 東海 2010(2010年3月13日, 名古屋大学東山キャンパス)発表ポスター

<http://hdl.handle.net/10076/11215>

おわりに

「ミッション」を図書館運営 (マネジメント)につなげる

- 学内での図書館の位置づけ
 - 施設の整備
 - コレクションやデータベースの整備
 - 人員配置
- ↓
- 図書館の存在をいかに学内でアピールしていくか